

国民が主権者であり続けるために

私たちはこの国をどんな国にしたいのか。何事も力で押し通す国など望んでいない。自由にモノが言える国、敵を作らない国、独立主権国家、そして何よりも非戦の国をめざしてきたはずです。

立憲主義と民主主義を回復し、国民が主権者であり続けるためにそれぞれができることを続けましょう。

私も全国の皆さんと共に違憲訴訟という手段も使い戦争法廃止に向けて闘い続けます。

今こそ一人ひとりが自立した市民として主体的に行動するチャンスです。



弁護士・伊藤塾塾長
伊藤 真さん

反対運動のエネルギーを広く強くして「安保法制」の廃案を

違憲の安保法案が民意を無視して強行されました。これをそのままにすれば、日本国憲法の平和主義、立憲主義、そして民主主義は侵害されたまま、国の形が大きく変わってしまいます。法案反対運動に示した国民のエネルギーをさらに広く強くして、「安保法制」の廃止をなし遂げましょう。



専修大学教授
広渡 清吾さん

私たちは戦争法の廃止を訴えます

戦争によって人生をめちゃくちゃにされたくない

高校生、大学生をはじめ私たち若者はこれから先、半世紀以上を生きていくことになると思います。自分の人生を、戦争によってめちゃくちゃにされたくありません。これから生まれてくる新たな命にも責任があります。だから、戦争をできるようにする法律には断固反対します。

憲法無視をこれ以上許さないため、「不断の努力」(憲法12条)を続けていきましょう。



若者憲法集会実行委員会
黒津 和泉さん

誰の子どももころさせない

私たちは、何のために働き、何のために子どもを育て、何のために生きるのか。今回の戦争法案では、そのことが突きつけられました。

戦闘行為は、自衛隊の中で完結するものではありません。私たちの日々の働きから生み出されるものが、戦争に使われるのです。兵士の命についても同じです。誰かを殺すために生きるなんてことは、もう終わりです！

戦争協力反対の声を上げ、手を取り合いましょう。



安保関連法に反対するママの会
西郷 南海子さん